

うに郷通信

No.90
平成28年(2016)12月



発行：宇仁郷まちづくり協議会 (編集:情報部会)

第9回コスモスまつりを終えて

宇仁郷まちづくり協議会主催第9回コスモスまつりを、10月23日(日)午前9時30分より旧宇仁幼稚園をメイン会場に開催しました。

今年は記録的な猛暑の夏でしたが、7月~8月初旬に「コスモス畑」「コスモス街道」造りのため6町の役員さん約80人と子供会40人余りの方々にご協力いただき、コスモスの種まきを実施しました。

その後9月まで炎天が続いたため、街道へ散水したり、コスモス畑に水を入れてくださる役員さんもありました。お陰様でコスモスまつりには約2.5ヘクタールのコスモス畑と16kmのハイキングコース沿道に、美しく成長したコスモスの花が咲きました。

参加者はこの素晴らしい風景の中「健康ハイキング」を楽しみました。また婦人会の役員さんやふれあい喫茶のメンバーが作った美味しいカレーやおでんを食べたり、宇仁の朝市の安くて新鮮な野菜や花を購入したり、賞品が多くなった抽選会など、楽しい1日を過ごしました。また、この10月で1周年となる宇仁郷歴史資料館では「播州弁検定」「宇仁っ子ふるさとガイド隊による里山散策」等を実施し、まつりを盛り上げました。末尾になりますが、コスモスまつりのために懸命に設営等で努力していただきました当番町の田谷町や各町ボランティアの皆様方に、心より感謝と御礼を申し上げます。



(花畑街道部会)

播磨国守護 赤松円心の史跡を訪ねて

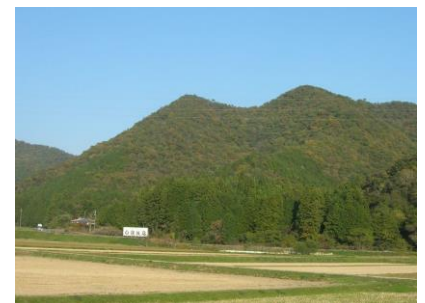
11月2日、資料館関係者7人で赤松円心(1277~1350)の里、赤穂郡上郡町を訪ねました。上郡郷土資料館で教育委員会の学芸員から古代~中世にかけての出土品と遺跡の説明を受けた後、円心ゆかりの法輪寺、白旗城跡を訪ねました。

建武3年(1336)円心は後醍醐天皇と対立した足利尊氏に味方し、白旗山上に城を築き、そこで西国に敗走する尊氏を追撃してきた新田義貞が率いる6万の軍勢を釘付けにします。義貞は50日余り攻め続けますが、要害堅固な白旗城を落とすことができず、勢力を盛り返した尊氏に退去を余儀なくされました。この時の武功により、円心は備前・美作・播磨国の守護として室町幕府の重鎮となりました。

この時代、赤松氏の影響下にあった宇仁郷においても宇仁山、青野、馬渡谷に支城が築かれ、赤松一族が当地の軍事、徴税、治安にあたっております。

その後、嘉吉元年(1441)赤松氏の領地をめぐる幕府との争いがあり、円心から4代目に当たる赤松満祐が6代將軍足利義教を暗殺する、いわゆる「嘉吉の乱」が起こり赤松宗家は滅びます。

*赤松円心は法名 実名は赤松則村



後方の高い山山頂一帯が白旗城跡

(宇仁郷歴史資料館)

アロマクラフトで楽しみました

コスモスまつりの当日、アロマクラフトの製作体験をインストラクターの柏原奈津美さんの指導で実施しました。アロマクラフトとは精油(エッセンシャルオイル)を使って手作りするクラフト(手工芸品)のことで、パック、石鹸、バスグッズ...などを作ります。柏原さんから次のようなコメントが寄せられました。

『参加した子どもたちは作品を作りながら、「この香りはお母さんが好きそう」等、家族のことを思いながら、香りを選んでいました。家族みんなでアロマを楽しんで頂けたら嬉しいです。』

(事務局)



秋季ハイキング：小豆島へ行ってきました

11月5日、参加者38人で小豆島へ行きました。フェリーを利用することもあり、時間的にかなりのハードスケジュールになりますので、計画段階で9月3日に下見をして念入りに準備をしました。当日は終日絶好の行楽日和に恵まれました。

小豆島に到着後は、まず全員ロープウェイで寒霞渓山頂に登りました。紅葉にはまだ早い時期でしたが、雄大な景色を楽しみながら昼食をとりました。

昼食の後、ハイキング組27人と散策組11人に分かれて楽しみました。ハイキング組は、約3時間の行程でしたが全員が歩き切り、「ちょっとしんどかった」と言いながらも絶景を満喫しながら良い汗をかきました。平素からの鍛錬のおかげでしょうか。

散策組は、二十四の瞳映画村やオーリーブ公園を楽しみました。その後全員が合流して帰路につきました。ちょっと慌ただしい行程でしたが、全員楽しい1日を過ごしました。

これからも色々企画いたしますので、皆様こそってご参加ください。

(スポーツクラブ21)



コスモスまつりとふるさとフェスタに出店しました

日照り続きでコスモスの開花が案じられましたが、道端の見事に咲いた色とりどりのコスモスを両手いっぱい抱えて会場へ行き、各テーブルに飾り付け、おでん、コーヒーと準備万端、さあコスモスまつりの開幕です。スタッフの愛情のこもった大きなお鍋8個、「作り過ぎたかな？」との心配も吹っ飛ばす程の売れ行きに、スタッフ一同大喜び!!! ありがとうございます。会場内に敷いたブルーシートの上で、おでんやカレーを美味しそうに食べてくつろいでいる小さな子どもを連れた若い親子連れが沢山ありました。「今回は子どもを座らせる場所があったので嬉しかったです。」と喜びの声でした。

11月5日午後、西脇市民会館において北播磨ふるさとフェスタが開かれました。宇仁からは朝市とふれあい喫茶が参加しました。

会場内の大ホールでこのとり賞、くすのき賞などの表彰があり、宇仁地区から給食調理ボランティアで、田谷町岡本昌子さん、鍛冶屋町松本晴美さんがこのとり賞を受賞されました。おめでとうございます。長年のボランティア活動ありがとうございます。表彰式等の後小野市出身の北京オリンピック5,000m出場の小林祐梨子さんの「人との絆に込めた思い」の講演がありました。他市町との交流もでき、有意義な時間を過ごしました。

(ふれあい交流広場、宇仁の朝市)



宇仁郷歴史資料館だより ③-8 近世の宇仁郷

(6) 家原の陣屋(加東・家原)

正保2年(1645)浅野長直が常陸国笠間から転封してきた浅野赤穂藩53,500石は、長直、長友、長矩と3代50余年続きますが、長友のとき寛文11年(1671)、長直の次男長賢の分家が加東郡家原に成立しました。石高を分割し、浅野長賢に3,500石が譲渡され、浅野赤穂藩の長友は50,000石になりました。

家原浅野家に分地された村は加東郡の垂水、窪田、中、北、梶原、家原、鳥居、田中、貝原、仁我井(福吉)、沢部の11ヵ村でした。

家原浅野家陣屋は、現在の国道175線と千鳥川が交差する西側の夢園温泉跡付近に居を構えておりました。浅野赤穂藩の穂積陣屋と家原浅野家の陣屋は千鳥川に面した約1キロの距離にあり、密接な交流が伺われ、両陣屋とも千鳥川と加古川の水運に恵まれた環境にあったので高瀬舟を使った交易をしていたと思われます。



開館日 第1・3日曜9時30分～12時